

等覚寺と東山神社の円空仏

遅くして発掘された天才

円空（1632 年ごろ～1695 年）は、美濃国（現在の岐阜県）に生まれた廻国僧・彫刻家でした。円空は若い頃、12 万体の仏像を作ることを誓い、その生涯にわたって多数の作品を残しました。円空は、東日本から北海道を含む北日本全体を行脚しながら食事と宿泊させてもらうことと引き換えに、現地の木材を使って仏像を彫り、また説教もしていました。円空仏は、この時代には珍しい、ひとつの木の塊から彫り出された仏像で、また塗装されなかったため、のみの彫り跡が残っているものが多くあります。そのようなことから、円空仏は、雑で、不格好で、不完全なものだと見られていました。円空の才能が認められたのは、死没から 250 年経った 1950 年代でした。第二次世界大戦後の余波があり、民主主義の台頭し始めた時代、円空の素朴で野暮ったい作品は、当時の庶民の窮状への共感を表していると思われていました。（円空自身も貧しい家の出身でした。）現在では、国内全体で 5,300 体以上の仏像が円空の手によるものだと確認されています。

等覚寺には左から右の順に、学問の神の像、天神像（左）、僧の食糧の面倒を見、厨房のかまどの上に設置（そのために煤汚れています）されていた韋駄天像（中央）、そして、15 人の童子（現在は 7 体が紛失しています）を従えた音楽、詩や芸術の女神、弁財天の弁財天十五童子像（右）の 3 組の円空仏が安置されています。

等覚寺の裏の丘の上には東山神社があります。この神社への道には枝垂れ桜の木が並んでおり、ここからは谷の全貌を見渡すことができます。